

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 調剤実績

当第3四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成23年11月30日) (枚)	前年同四半期比(%)
三重県	165,417	98.9
大阪府	50,129	99.3
京都府	58,243	106.6
山梨県	29,216	98.7
愛知県	28,056	140.3
その他	98,297	108.5
合計	429,358	104.1

(2) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成23年11月30日) (千円)	前年同四半期比(%)	
調剤薬局事業	薬剤料	3,537,795	109.2
	技術料等	925,630	104.7
小計	4,463,425	108.2	
ヘルスケア事業	231,989	140.8	
医薬品卸事業	177,696	110.8	
不動産事業	18,806	99.9	
合計	4,891,918	109.5	

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第3四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日) (千円)	前年同四半期比(%)	当第3四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,548,122	104.4	32
大阪府	735,066	107.8	9
京都府	632,606	110.8	9
山梨県	332,255	104.1	1
愛知県	287,882	123.0	7
その他	927,492	111.1	20
合計	4,463,425	108.2	78

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興が進むものの、海外経済の減速や円高などの影響で、依然として不透明な状況が続きました。

このような状況の中で、当社の主力とする調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先し患者様に選ばれる店舗運営を推進するとともに事業規模の拡大に向け取り組んでまいりました。ヘルスケア事業におきましては、介護付有料老人ホームを今後の成長エンジンと位置づけ、3年間で10施設の開設を目標として、安定的な成長に向けて取り組んでまいりました。また、医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進策が進められている状況下、積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高4,891百万円(前年同期比9.5%増)、営業利益282百万円(前年同期比0.1%減)、経常利益261百万円(前年同期比2.3%減)、四半期純利益137百万円(前年同期比5.2%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、9月に有限会社クローバーを子会社化したことにより、埼玉県へ進出いたしました。子会社化による取得2店舗、新規出店1店舗の計3店舗を当四半期中に出店し、当社グループの調剤薬局は78店舗となりました。また、既存店舗においても処方箋単価が前年を上回り、売上高4,463百万円(前年同期比8.2%増)、営業利益341百万円(前年同期比0.4%増)と増収増益を確保いたしました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、既存施設の売上が計画どおり増収となったことに加え、6月に開業した介護付有料老人ホーム「ハーモニーハウス伊賀大山田」の売上也順調に推移しており、売上高231百万円(前年同期比40.8%増)、営業利益25百万円(前年同期比13.2%増)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進策のもと、積極的な営業活動を推進したことにより、売上高177百万円(前年同期比10.8%増)、営業利益14百万円(前年同期比26.5%増)となりました。(内部売上高を含む売上高は255百万円となり前年同期比15.9%増。)

(不動産事業)

不動産事業におきましては、安定した賃料収入により売上高18百万円(前年同期比0.1%減)、営業利益9百万円(前年同期比6.6%増)となりました。

(注) 第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。これにより事業区分へ与える影響はないため、前年同期比較を行っております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は15,242百万円となり、前連結会計年度末と比較し2,617百万円増加いたしました。

流動資産の合計は5,966百万円となり、前連結会計年度末と比較して776百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加350百万円、売掛金の増加251百万円によるものです。

固定資産の合計は9,275百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,841百万円増加いたしました。これは主に関係会社株式の増加2,002百万円によるものです。

負債合計は11,090百万円となり、前連結会計年度末と比較して2,175百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加396百万円、短期借入金の増加600百万円、長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加961百万円によるものです。

純資産合計は4,151百万円となり、前連結会計年度末と比較して442百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益519百万円によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は2,684百万円となり、第2四半期連結会計期間末と比較して108百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、334百万円(前年同期は274百万円)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益261百万円、仕入債務の増加128百万円、減価償却費78百万円があったものの、法人税等の支払247百万円があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,404百万円(前年同期は516百万円)となりました。これは主に、有形固定資産の売却による収入32百万円、預り金の増加24百万円があったものの、関係会社株式の取得による支出1,311百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出89百万円、有形固定資産の取得による支出44百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は1,178百万円(前年同期は553百万円)となりました。これは主に、短期借入金の純増加559百万円、長期借入金の純増加620百万円があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。